

教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う。

朗読を通して文学的な文章を読み取り、目的を持って文章を読むことの事例

1 学年 第1学年

2 単元名 少年の日の思い出

3 単元の目標

- (1) 朗読することにより、場面の展開や登場人物などの描写に注意し、内容の理解に役立てることができる。(読むこと)
- (2) 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げることができる。(読むこと)

4 言語活動の充実の視点

視点1：個人で朗読の仕方を考え、グループで朗読の仕方を考える。

視点2：朗読を通して感じたこと、考えたことを振り返る。

5 主な学習活動

時間	学習活動
1	○文章を通読し、話の展開や内容の大体をつかむ。 ○朗読する場面を決める。
2	○朗読の仕方を考えるための方法を確認する。
3	・朗読する際の観点(声の強弱・高低・話す速度・間の取り方等)と、その効果を理解する。 ○個人で朗読の工夫及びその理由を考える。 ・朗読する際の観点到に基づいて、なぜそう朗読するかを考え、ワークシートにまとめる。 ・朗読の工夫に関しては、本文に根拠を求め考える。 ○グループで朗読の工夫及びその理由を交流する。 ・交流を通して気付いたことや朗読の修正点をワークシートに書き加える。(自分の考えと区別できるようにする) ○各自で朗読の練習をする。 視点1
4	○「朗読会」を開き、朗読を発表し合う。
5	○朗読の仕方考えることを通して、気付いたことをノートにまとめる。 視点2 ・自分が読んでいただけでは分からなかった作品の内容の解釈や読みの深まり捉える。

単元を貫く言語活動

- 国語科における言語活動とは「音読する」「考えを書く」「話し合う」といった活動が脈絡なく行われることではありません。生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を通して一貫した言語活動を位置付けることです。

授業づくりのステップ
「C読むこと」例

- Step1：指導内容(付けたい力)を見極める。
(例：表現描写を捉え内容を読む)
- Step2：付けたい力にふさわしい言語活動を位置付ける。(例：場面を工夫して朗読する)
- Step3：言語活動が生徒の課題解決の過程となるようにする。(例：朗読の仕方を個人で考え、グループで修正し合う)
- Step4：思考や判断を促す発問や指示を具体化する。(例：なぜそう朗読するのかを考える)

評価の観点

- 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の各観面で評価規準を設定します。
- 言語についての知識・理解・技能の観点は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習状況を評価する観点です。

教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象間の特色や事象間の関連を説明するなどの学習を一層充実する。

仮説を立てて追究し、その結果を白地図にまとめる事例

1 学年 第1学年

2 単元名 オセアニア

3 単元の目標

オセアニアに関わる学習課題について、多面的・多角的に追究・考察し、州の地域的特色を理解するとともに、捉えた特色を適切にまとめ、表現する。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 課題解決に必要な情報を収集し、客観的な根拠に基づいて自分の考えをまとめ、グループで話し合う。その結果を、発表し合い学級全体で共有する。

視点2： 学んだことを白地図などに表現し、発信する。

5 主な学習活動（全6時間）

	学習活動
つかむ(2)	・学習課題の背景となるオセアニアのあらましについて、資料を基に自分の言葉でまとめたり、地図に表現したりする。
調べ追究する(2)	・移民の出身地や貿易相手国の変化の統計資料の読み取りから、アジアとの結びつきを強めている事実を理解する。 ・既習事項を基に、地図や統計資料を活用して学習課題に対する仮説を立て、客観的資料根拠に論理的に説明する（少人数グループ）。 視点1
解決深化する(1)	・地図や資料を活用し、仮説を説明する。 ・他グループの意見を聞き、仮説の修正を図る。 ・学級全体で仮説を修正し、学習課題を解決する。
まとめる(1)	・オセアニア州の特色を的確に表すキャッチフレーズを考え、白地図に工夫して表現する。 視点2

育成する資質や能力

- 「世界の諸地域」の学習では、人々の生活と関連した主題を設定し、地誌的な学習を通して各州の地域的特色を理解させることが求められています。地域の課題や解決策について意見交換できる能力を育成しましょう。

言語活動の充実のポイント

- 個人の意見を基に少人数で話し合い、適切と思われる仮説をワークシートにまとめ、それを基に発表会を行い、学級全体で共有する学習などを充実させましょう。
- 言葉や文章のみの表現だけでなく「地図やグラフを活用しての説明」、「イラストや関係図を書いた説明」など、表現のさせ方を工夫しましょう。

評価の観点

- 社会的事象から課題を見だし、その意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現しているかを評価することが大切です。

教科目標

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

生徒が学んだ数学を活用して考えたり判断したりすることをよりよく行うことができるよう、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習活動を充実する。

表、式、グラフを相互に関連付けて数量の関係の考察を深める事例

1 学年 第3学年

2 単元名 関数 $y=ax^2$

3 単元の目標

具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばすことができる。

4 言語活動の充実の視点

視点1： A社の料金表から、具体的な事象を捉え、表、式、グラフなどを用いて表現する。

視点2： A社とB社を比較しながら、具体的な事象を捉え、いろいろな見方を広げる。

5 主な学習活動

段階	学習活動																
導入	・既習事項の関数について、復習をする。																
展開	・仙台から大阪まで、品物を箱に入れて送るとき、A社では、箱の縦、横、高さの長さの合計によって、料金が決まる。箱の縦、横、高さの合計を x cm、料金を y 円とし、二つの関係について考える。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">視点1</div> <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>長さの合計</th> <th>料金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60cm まで</td> <td>¥900</td> </tr> <tr> <td>80cm まで</td> <td>¥1,100</td> </tr> <tr> <td>100cm まで</td> <td>¥1,300</td> </tr> <tr> <td>120cm まで</td> <td>¥1,500</td> </tr> <tr> <td>140cm まで</td> <td>¥1,700</td> </tr> <tr> <td>160cm まで</td> <td>¥1,900</td> </tr> <tr> <td>170cm まで</td> <td>¥2,100</td> </tr> </tbody> </table>	長さの合計	料金	60cm まで	¥900	80cm まで	¥1,100	100cm まで	¥1,300	120cm まで	¥1,500	140cm まで	¥1,700	160cm まで	¥1,900	170cm まで	¥2,100
	長さの合計	料金															
60cm まで	¥900																
80cm まで	¥1,100																
100cm まで	¥1,300																
120cm まで	¥1,500																
140cm まで	¥1,700																
160cm まで	¥1,900																
170cm まで	¥2,100																
	・B社では、長さの合計が50cmまでの料金は700円、80cmまでは1050円である。その後170cmまでは30cmごとに350円ずつ高くなる。長さの合計がどんなときに、どちらの会社の料金の方が安い考える。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">視点2</div>																
終末	・身の回りには、関数関係にある事象がたくさんある。いろいろ探してみる。																

数学的活動の充実

- 数学的活動の中にある「発展させる活動」「利用する活動」「伝え合う活動」を充実させ、既習の内容を基にして、数学的な表現を用い、主体的な学習で、言語活動の充実を図っていきましょう。

言語活動の充実のポイント

- 具体的な事象を数学的に表現したり、処理したりする技能を高める学習活動を充実させましょう。
- 思考の過程や判断の根拠などを数学的に表現して説明したり、数学的に表現されたものについて話し合って解釈したりする学習活動を充実させましょう。
- 数や図形の性質などについて伝え合うことで、互いの考えをより良いものに改めたり、一人では気付くことのできないことを見いだしたりする機会を設けましょう。

評価の観点

- 事象を数学的に捉えて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習は、「数学的な見方や考え方」の観点で評価しましょう。

教科目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

科学的な思考力、表現力の育成の観点から、問題を見だし観察・実験を計画する学習活動、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動といった探究的な学習活動を充実する。

仮説を立て実験を行い、その結果を分析し解釈する事例

1 学年 第2学年

2 題材名 炭酸水素ナトリウムを熱したときの变化

3 題材の目標

炭酸水素ナトリウムを熱したときに生成する物質について仮説を立て、検証するための実験を行い、その結果から状態変化とは異なる変化により複数の物質が生じることを見いだすことができる。

4 言語活動の充実の視点

視点1： ふくらし粉（炭酸水素ナトリウム）を混ぜた小麦粉を加熱するとふくらむことから、その原因（気体の発生）について仮説を立てさせ、それを検証する方法を話し合わせる。

視点2： 各班で考えた検証方法により発生した気体を同定させ、実験結果から気体以外の物質も生じたことや状態変化とは異なる変化が起きたことを、根拠を明らかにしながら説明させる。

5 主な学習活動（2時間扱い）

時間	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演示実験（ふくらし粉を混ぜた小麦粉と混ぜないものを熱して比較する）を見て、違いが生じた理由を考える。 ・ 炭酸水素ナトリウムを加熱したとき発生すると考えられる気体を予想する。（個→班） ・ 予想した気体を集める方法及び確かめる方法を話し合い、ホワイトボードにまとめる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 炭酸水素ナトリウムを熱して気体を発生させ、前時に計画した方法で発生した気体を調べる。 ・ 各班の実験結果を発表し、仮説に対する結論を書く。 ・ 気体の発生以外に気が付いたことを発表させ、炭酸水素ナトリウムの加熱による変化が状態変化とは異なることを、実験結果を根拠にして説明する。

視点1



視点1

視点2

理科における言語の役割

- 「言語活動」は論理や思考といった知的活動の基盤として、科学的な思考力や表現力を育成するために必要不可欠な活動です。

言語活動を充実させる主な場面

- 課題発見・課題の設定の段階
 - ・ 疑問を明らかにし、仮説を考え話し合う。
- 実験の計画・予想の段階
 - ・ 観察・実験の計画や結果の予想を話し合う。
- 結果と考察の段階
 - ・ 観察・実験の結果を記録したり整理したりする。
 - ・ 観察・実験の結果を分析して解釈し、考察をまとめる。
- 結論とまとめの段階
 - ・ 観察・実験の結果や考察を基にした話し合いや発表をする。
 - ・ 観察・実験レポートを作成する。

※特に、目的意識を持って探究的な活動に取り組みさせるために「課題発見・課題設定」や「実験の計画・予想」の段階で言語活動を位置付けましょう。

評価の観点

- 評価の観点「科学的な思考・表現」の「表現」は、これまでの「観察・実験の技能・表現」で評価していた「表現」ではありません。思考したことを言語活動等によって表出させ、「思考」と一体的に評価します。

教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

音楽科においては、創意工夫して音楽表現をする能力や味わって聴く能力を育成する観点から、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、例えば、表現領域では、どのように音楽表現をしたいのかという思いや意図を言葉で表したり、鑑賞領域では、音楽を聴いて価値などを考え、批評したりする学習活動を充実する。

自分の思いや意図を伝え合いながら、創意工夫して音楽を表現する事例

1 学年 第3学年

2 題材名 歌詞や言葉の特徴を感じ取り、思いを表現してみよう

3 題材の目標

- 歌曲の旋律、強弱、音色を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取りながら、歌詞に込められた思いや言葉を理解して音楽表現を工夫する。
- 言葉や音階などの特徴を感じ取り、反復、変化などの構成などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて旋律をつくる。

4 言語活動の充実の視点

視点1：言葉と音楽の関係において、言葉のまとまり、リズム、抑揚、高低アクセント、発音などから生まれる日本語の持つ美しさや歌詞の内容を味わい、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。(音楽表現の創意工夫)

視点2：反復、変化などの構成や全体のまとまりをどのように工夫して旋律をつくったのか、その特徴をどのように感じ取ったのかを述べ合い、生徒一人一人の考え、意図や価値意識を広げる。

5 主な学習活動(全6時間)

段階	学習活動
第一次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「花の街」を聴いて曲の雰囲気や感じ取った特徴を述べ合う。 ・「作詞者の言葉」を読み、歌詞に込められた思いを理解し、知覚・感受した強弱や声の音色、旋律の音高などをどのように歌うかについて意見交換しながら表現を追求する。 ・日本語の抑揚や発音、発声など歌い方をいろいろと試しながら、曲にふさわしい音楽表現となるように、思いや意図を持って「花の街」を歌う。
第二次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された歌詞を読んで、自分が感じる抑揚や高低アクセント、リズムなどを簡単にワークシートに書き表してみる。 ・書き表した記録を基に、工夫して旋律をつくる。 ・自分の楽曲の工夫点(反復や変化させた箇所、させた理由、仕方など)をワークシートに記入する。 ・グループを組み、工夫点を伝え合い、それを基に聴いた感想(工夫点がどのように聴こえたか)を述べ合う。 ・仲間からの感想を基に、自分の楽曲の見直しを行い、旋律を完成させる。

視点1

視点2

音楽表現や鑑賞の学習の充実を図るために

- 学習過程において、音楽に対するイメージ、思い、意図を相互に伝え合う活動を位置付けて、仲間とともに創意工夫して音楽を表現する喜びを味わうようにしたり、様々な感じ取り方があることに気付いて一人一人の音楽に対する意識を広げたりする指導を工夫しましょう。
- 鑑賞領域における学習の終末段階で批評文にまとめたりする言語活動を取り入れるだけではなく、表現領域、鑑賞領域ともに、学習の過程で適切に取り入れましょう。

歌唱表現において

- 言葉と音楽との関係を重視する観点から、歌詞の内容や言葉の特徴を生かして歌ったり、日本語の持つ美しさを味わったりする学習活動の充実を図りましょう。

評価の観点

- 「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」は、音楽科における思考・判断・表現に係る観点として位置付けます。
- 「音楽表現の創意工夫」では、音楽的な感受に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについて思いや意図を持っている状況进行评估しましょう。
- 「鑑賞の能力」では、音楽的な感受に基づきながら解釈したり価値を考えたり、それを言葉で表すなどして、音楽の良さや美しさを味わって聴いている状況进行评估しましょう。

教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

表現や鑑賞の能力を育成する観点から、形や色彩、材料の感情効果やイメージを捉えながら、アイデアスケッチ等により発想や構想を練ったり、作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなどして幅広く味わったりするなどの学習活動を充実する。

他者と考えを交流することにより見方や考えを深める事例

- 1 学年 第3学年
- 2 題材名 街の中で息づくアート
- 3 題材の目標



公共空間の目的や機能を考えて表現することに関心を持ち、コンセプトや使用する者の気持ちなどを基に表現の構想を練り、表現方法を工夫し、美しさの調和などを感じ取り、自分の価値意識を持って味わう。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 絵や文字を用いたアイデアスケッチによりイメージを具体化しながら、構想のポイントや留意点などを整理し構想を練り直す。(発想や構想の能力)

視点2： デザインのコンセプトに照らして作品を鑑賞し批評し合うことにより、表現の工夫などを捉え、見方を広げる。(鑑賞の能力)

5 主な学習活動(全4時間)

時間	学習活動
導入 (1)	・公共空間の目的や機能について理解し、全体の構想、使用する人の気持ちなどを踏まえて、企画書を作成する。
展開 (2)	・企画書を基にアイデアスケッチをし、デザインのコンセプトを整理する。 ・他者の助言等を基に構想に修正を加え、アイデアスケッチを練り直す。 ・材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表現する。
まとめ (1)	・お互いの完成作成を鑑賞し、デザインのコンセプト、形や色彩の効果などの工夫を捉え、批評し合う。

視点1

視点2

〔共通事項〕の視点

- 指導計画の作成に当たっては、形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕を視点に、美術科で育てようとする資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫することが重要です。

「B鑑賞」では

- 鑑賞の能力を高めるために、自分の価値意識を持って批評し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げるなどの学習を一層充実させましょう。
そのためにはまず、生徒自身が自分の思いや考えを持つことが大切です。考えるための時間の確保、手だてを工夫しましょう。

評価の観点

- 表現における、構想を練ったり、言葉で考えを整理したりする学習は、「発想や構想の能力」の観点で、鑑賞における、自分の価値意識を持って批評し合ったり、対象の見方や感じ方を広げる学習は、「鑑賞の能力」の観点で評価しましょう。

分野目標

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

技術・家庭科においては、知識及び技術を活用して生活における課題を解決する能力を育む観点から、衣食住やものづくりに関する様々な語彙の意味を実感を伴って理解する活動や、言葉・図表及び概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実する。

家庭分野においては、調理、製作、幼児と触れ合う活動などの実習を行った後に、体験から感じ取ったことや気付いたことをまとめたり、その結果を整理し考察したり、共有したりするなどの学習活動を充実する。また、衣食住などに関する知識や概念などを用いて課題を解決する方法を考えたり、生活の中の様々な情報を言葉や図表等にまとめて分析し、根拠に基づいて説明したりするなどの学習活動を充実する。

献立表を用いて自分の考えを発表し合い、食生活の課題解決を図る事例

1 学年 第1学年

2 題材名 自分の食生活を改善しよう B(2)アイウ

3 題材の目標

自分の食生活に関心を持ち、中学生に必要な栄養や食品等について理解し、課題を持って日常の調理の計画を立てて実践することができる。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 自分の食生活の課題を把握し、その解決策について、献立表を用いて自分の考えを説明する。

視点2： 昼食の調理計画を立て、家庭で実践したことをまとめて発表したりする活動を通して、自分の食生活を更に豊かにするための工夫を考える。

5 主な学習活動（全5時間）

段階	学習活動
第一次 (1)	・「食事バランスガイド」で自分の食生活チェックを行い、食生活の課題を把握する。
第二次 (2)	・中学生に必要な栄養を確認し、自分の課題を解決するために1日分の献立の工夫を考え、献立表に表す。 ・同じ課題傾向の生徒でグループを作り、作成した献立を発表し合う。相互評価を行い、献立を修正する。 視点1
第三次 (1)	・修正した献立の昼食の調理計画を立てる。 ＜家庭での実践＞
第四次 (1)	・献立の検討をしたグループで、昼食作りの実践発表会をする。相互評価を行い、気付いたことをまとめる。 視点2

家庭分野における言語活動

- 実習等の結果を整理し考察すると、いった学習活動を充実させることで、体験したことが客観性や科学性を伴う理解となり、思考の手だてとなります。
- 献立表や室内安全マップなどの図表や衣食住に関する概念を用いて考えたり、説明したりすることで、課題に対する思考力・判断力・表現力を育みます。

言語活動の充実のポイント

- 実践的・体験的な学習活動の前後の言語活動を工夫しましょう。
- 観察する観点を明確にして予想したり、感じ取ったことや結果について考察したりしたことなど、考えた過程が分かるレポートの記入欄を工夫しましょう。
- 問題解決的な学習の各学習過程で、言葉や図表、概念などを用いて自分の考えを説明したり、表現したり、話し合ったりする活動を充実させましょう。

評価の観点

- 課題に対して様々な角度から考える思考力、考えたことを基にして解決を図る判断力、判断した結果を的確に創造的に示すことのできる表現力を、「生活を工夫し創造する能力」で評価します。

中学校 技術 言語活動の充実 指導のポイント

教科目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

技術・家庭科においては、知識及び技術を活用して生活における課題を解決する能力を育む観点から、衣食住やものづくりに関する様々な語彙の意味を実感を伴って理解する活動や、言葉・図表及び概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実する。

技術分野においては、ものづくりなどの経験を通して、技術に関する重要な概念を思考等で利用できるような形にするといった学習活動を充実する。また、設計や計画の場面においては、製作図や栽培・飼育計画表、フローチャート等の技術特有の言語を用いて自らの考えを整理するとともに、よりよいアイデアを生み出すなどの学習活動を充実する。

プログラムの作成を通して工夫し創造する能力を育成する事例

- 1 学年 第3学年
- 2 題材名 『社会で利用されている計測・制御』
※ 実習（モーターカーの走行プログラムの制御）
D(2)アイ，D(3)アイ，D(1)エ

3 題材の目標

情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 目的や条件に応じた情報処理の手順について、フローチャートを用いて考え、プログラムを検討する。

視点2： 計測・制御に関する技術の長所と短所を、社会的側面、環境的側面、経済的側面などから整理し、社会や環境に果たしている役割や課題解決策について考える。

5 主な学習活動（全10時間）

段階	学習活動
第一次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを用いた計測・制御の基本的な仕組みを知る。 ・情報を処理する手順を知り、目的や条件に合うプログラムの作成方法を知る。
第二次 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件に応じた情報処理の手順について、フローチャートの作成を通して考える。 視点1 ・作成したフローチャートを基に、目的や条件に合うプログラムを作成する。 ・目的や条件に合うようにモーターカー（模型）を制御するためのプログラムを作成する。
第三次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御に関する技術が社会や環境に果たしている役割と適切な活用について考える。 視点2

基本的な条件

- 技術の授業における言語活動の充実は、以下の学習活動が考えられます。
 - ・問題解決的な学習
 - ・習得した知識・技能を活用し、課題を解決するために思考・判断・表現させる活動
 - ・目的・課題・条件を基に、最適解を考えさせる活動

指導計画上の工夫

- 指導内容A～Dの技術の評価と活用の学習時に、自分なりの考えをまとめさせる学習活動を設定しましょう。
- 身に付けさせたい能力(工夫し創造する力)が必要な場面を意図的に設定し、そこで考えたことを言葉や記号を用いて表現する活動を設定するようにしましょう。

ワークシートの工夫

- 目標の達成を目指し、様々な制約条件の中で最適な解決策を考え出すという思考の流れが明確になるようにワークシートを工夫しましょう。
- 自分がどうしてそのような使い方を考えたのか、根拠を明確にさせるための工夫をしましょう。

評価の観点

- 言語活動（話し合い、設計、まとめ、フローチャート作成等）を通して深まった自分なりの考えや身に付けた力を、「工夫し創造する力」の観点で評価しましょう。
- 同じ題材でも、指導する学年や時期によって評価規準のレベルを適正化しましょう。

教科目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進を図る資質や能力の育成を図る観点から、主に体を動かす活動を通して、コミュニケーションや感性・情緒に関する学習活動及び知的活動を充実する。また、健康・安全に関する知識を活用する学習活動を充実する。

仲間と関わり、基本的技能を身に付けながら工夫して課題の解決を図る事例

1 学年 第1学年

2 単元名 球技（ネット型：バレーボール）

3 単元の目標

バレーボールに積極的に取り組むとともに、バレーボールの特性を理解しながら学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫し、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。

4 言語活動の充実の視点

視点1：話し合いを通して互いの考えを伝え合ったり、仲間に助言をするなどして学習を援助しようとする。（コミュニケーション能力の育成）

視点2：身に付けた知識や技能を基に、個人やチームに合った練習方法を話し合ったり、作戦や戦術を工夫したりする。（論理的な思考力の育成）

5 主な学習活動（全12時間）

段階	学習活動
第一次 (1)	○オリエンテーション ・グループ編成、役割分担 ・バレーボールの歴史やルール
第二次 (4)	○個人技能を高める ・基礎的なパスの行い方 ・試しのゲーム①
第三次 (4)	○集団技能を高める ・攻撃の組織的プレー ・試しのゲーム②
第四次 (3)	○まとめのゲーム ・リーグ戦形式ゲーム

視点1

視点2

「体育分野」では

- 各運動場面で、体を動かす機会を適切に確保した上で、相手や仲間の良い演技に賛辞を送る、互いの良い演技を認め合う、互いに教え合うなどのコミュニケーションを図る学習活動を行います。
- 仲間の演技から良い動きを見付けたり、自己の演技と仲間の演技の違いを比較したりすることで、自己の取り組むべき技術的課題を明確にするなどの知識を実践的に活用する学習活動を行います。

「保健分野」では

- 実習などを実施した際の観察や体験を基に話し合い、考察し、個人生活における健康・安全に関する課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどの活動を重視します。
- 健康に関わる概念や原則を基に、自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりしたことについて、筋道を立てて説明するなどの活動を重視します。

評価の観点

- 話し合いへの参加の様子や、助言するなどして仲間の学習を援助しようとする様子は「運動への関心・意欲・態度」の観点で、学習内容を踏まえた作戦や戦術の選択を行う学習は、「運動についての思考・判断」の観点で評価します。

中学校 外国語 言語活動の充実 指導のポイント

教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの学習活動や、文法事項等の言語材料について理解したり練習したりする学習活動を充実する。「聞くこと」「読むこと」については、英語の意味を表面的に理解するだけでなく、相手の意向などを理解する学習活動を、「話すこと」「書くこと」については、学習した言語材料を用いて、自分の考えなどを表現する学習活動を充実する。外国語科の言語活動は外国語で行うことである点に留意する。

中学校外国語は言語活動の充実のために時数が増えます。教科書の分量も増えますが、増えた時数を教科書の内容理解に全て充てるのではなく、学習した内容を基に豊かな言語活動を展開する事が大切です。その参考にしていただくために、Let's Read 単元と Unit 単元の 2 例を提示します。

事例 1 : 読んだことを基に自分の生き方や在り方を考える事例

1 学年 第 2 学年

2 単元名 Let's Read 2 Try to Be the Only One

3 単元の目標

【表】自分の生い立ちや個性、将来の夢について 7 文以上の英文で書く。

【理】・新垣勉の生い立ちを自分と比べたり重ね合わせたりしながら読む。

・沖縄の文化や歴史を理解する。

【関】自分の生い立ちや個性、将来の夢について、必要に応じて辞書等を用いて 7 文以上書くことに取り組む。

※ 【言・文】は本単元では設定しない。

4 言語活動の充実の視点

視点 1 : 本文に書かれていない主人公の言葉を作文することを通じて、主人公の心情の理解を深める。

視点 2 : 学習した言語材料を用いて、自分の生い立ちや個性、将来の夢について作文する。

5 主な学習活動 (全 8 時間)

時間	学習活動
1	・新垣勉の生い立ちを理解する。
2	・牧師との出会いについて理解する。
3	・新垣勉が自分の生い立ちについて牧師に語った言葉を想像し、作文する。 視点 1
4	・牧師の家族との生活や大学生活について理解する。
5	・新垣勉が歌手になった経緯や歌手としてのモットーを理解する。
6	・自分の生い立ちや個性、将来の夢について作文するために有効な表現を書き出す。併せて、不定詞の名詞的用法と動名詞の用法を確認する。
7~8	・自分の生い立ちや個性、将来の夢について作文する。その後、グループで互いの作文を読み合い、他者の作文を参考に自分の作文を練り直し、書き上げる。 視点 2

事例2 : 思考・判断しながらスキットを作成し演じる事例

- 1 学年 第3学年
- 2 単元名 Unit 6 Break the Barrier
- 3 単元の目標

【表】 黒人のメジャーリーグ参加を支援する人々と、それに反対する人々とのスキットを作成し演じる。

【理】 J. Robinson の生涯と功績、当時の人種問題について理解する。

【関】 聞き手が分かりやすいように話し方を工夫してスキットを発表する。

【言・文】 接触節と関係代名詞を用いた文の構造を理解する。

4 言語活動の充実の視点

視点1 : スキットを作成し演じることを通じて、当時の社会の様子や J. Robinson の業績について理解を深める。

視点2 : スキットの発表後、用いた関係代名詞の文を見直し、文構造の理解を深める。

5 主な学習活動 (全10時間)

時間	学習活動
1～3	Starting Out, Dialog ・写真の人物、接触節、関係代名詞について理解する。
4～6	Reading for Communication ・J. Robinson の生涯と業績について理解する。
7	・黒人を支援する人々と反対する人々の考えを想像し、関係代名詞を用いて書く。 -He's a great player who makes MLB exciting. -There are a lot of people who hate him. など。
8～9	・4人グループで黒人を支援する人々と反対する人々のスキットを作成し演じる。演技を見ている生徒は、スキットで用いられた関係代名詞の文を書き取る。 視点1
10	・P66の課題Bを参考に、J. Robinson の伝記を読んで学んだことや考えたことを作文する。 ・スキットで用いた関係代名詞の文を見直し、文構造の理解を深める。 視点2

言語活動の内容の充実

- 学習した言語材料を用いて、互いの考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を設定しましょう。事例1では、学習した be born in, take care of, be interested in, like to, begin to などの表現を用いて、自分の生い立ちや個性、夢などを作文する言語活動を行います。
- 新たなことを学び、見方や考え方を広げる言語活動を展開しましょう。事例2では、スキットの作成を通じて人種問題について理解を深め、学んだことや考えたことを作文します。

文法指導と言語活動

- 文法指導と言語活動の一体化を図りましょう。事例2では、第7～10時に生徒が用いる英文を教師が事前に予測し、それを第1～3時の文法指導の例文や練習に活用します。
- 互いの考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を通じて、学習した言語材料の定着を図りましょう。事例2では、スキットで用いた関係代名詞の文を第10時に見直し、文構造を再確認して理解を深めます。

評価の観点

- 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」は、コミュニケーションに取り組む様子や継続させようとする努力の様子について評価します。事例1では第7・8時の作文への取組で、事例2では第8・9時の発表で評価します。
- 「文化についての理解」は、手紙やメールの書式など、理解をしていないとコミュニケーションに支障をきたす内容について評価します。本事例の「沖縄の文化」「人種問題」は、「外国語理解の能力」で評価します。

道徳の時間の目標

道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める観点から、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう、自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する学習活動を充実する。

書く活動を通してねらいとする道徳的価値に関わる自分の考えを持たせる事例

- 1 学年 第3学年
- 2 主題名 「きまり」を守ることの意義 4-(1) 法やきまりの遵守
(文部省資料：「二通の手紙」)
- 3 ねらい
動物園の「きまり」と入園者の事情を察した元さんの揺れる心情を通し、「きまり」の意義を理解するとともに、集団の秩序を高めるための道徳的判断力を養う。
- 4 言語活動の充実の視点
視点1：書く活動を通して生徒に自分自身の考えを持たせ発表し合う中で、自分の感じ方や考え方を明確にさせる。
- 5 主な学習活動



自分の考え方を基に
表現する機会の充実

- 道徳の時間のねらいに迫るために、「書いたり討論したりするなどの表現する機会」を持つことは、生徒の意見の拠り所を明らかにする過程でもあり、道徳の時間のねらいである道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深めることを促します。
生徒と生徒及び自分自身との対話が深まるよう、表現する活動の内容や場面の工夫が一層求められます。

評価の方法

- 道徳の時間における生徒の様子に関する評価は、慎重かつ見通しを持って取り組む必要があります。道徳の時間は、生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は難しいものです。
生徒の道徳性を理解し評価するためには、観察、面接、作文やノートなどによる資料収集の方法があります。これらを併用し、道徳性の理解を深め、適切に評価し、指導を改善していく手掛かりになるようにしましょう。

段階	学習活動
導入	○「きまり」についてのイメージを交流する。 ・「きまり」についてどんなイメージがあるか。
展開	○「二通の手紙」を読んで話し合う。 ・あなたが元さんだったら、幼い姉弟を入園させたか。また、それはなぜか。 ・事務所の中で連絡を待っていた時、元さんはどんなことを考えていたのだろうか。 ・元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だったのだろうか。
終末	○法や「きまり」の意義について話し合う。 ・「きまり」は何のためにあるのだろうか。 ○本時を振り返り、考えたことをまとめる。 ・授業全体を通して、考えたことをまとめよう。

視点1



中学校 特別活動 言語活動の充実 指導のポイント

特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

よりよい生活を築くために集団として意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する。

体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実する。

集団としての合意を形成する力を育成する事例

- 1 学年 第2学年
- 2 議題名 合唱コンクールの自由曲を決めよう
- 3 活動の目標

合唱コンクールの自由曲を決める話し合い活動を通して、自己の考えや思いを自分の言葉で表現するとともに、意見の相違を超えて、学級として意見をまとめ、協力して実践しようとする態度を育てる。

4 言語活動の充実の視点

視点1：自分が歌いたい自由曲について、根拠を明確にして発表し合い、お互いの意見を比べ、学級としてふさわしい自由曲は何か考えさせる。(思考・判断・実践の能力)

視点2：今の学級の様子にふさわしい自由曲を決定することで、合唱コンクールに向けた活動意欲を高める。(関心・意欲・態度)

5 主な学習活動

段階	学習活動
事前の活動	<ul style="list-style-type: none">・昨年度の合唱コンクールを振り返り、今年にかける自分の考えや思いを伝え合い、学級としての目標を決定する。・自分が歌いたい自由曲について、根拠を明確にしてまとめる。
話し合い活動	<ul style="list-style-type: none">・自分が決めていた自由曲について、根拠を明確にして発表し合い、比べ合う。 <p style="text-align: right;">視点1</p> <ul style="list-style-type: none">・今の学級の様子にふさわしい自由曲を学級として決定する。 <p style="text-align: right;">視点2</p>
事後の活動	<ul style="list-style-type: none">・合唱コンクールに向けた学級の目標を踏まえ、練習計画などについて話し合い、協力して練習に取り組む。

留意事項

- 事前に選定条件を決定しておき、これに沿った根拠を考えさせておくことで、意見の絞り込みが行いやすくなります。

言語活動の充実のポイント

- 納得のいく集団としての決定を行うために、質疑時間を十分に確保することが大切です。
集団としての決定の重みについて理解させ、一人一人に発言の機会が十分に与えられるように配慮することが必要です。

評価の観点

- 学級や学校生活の充実と向上につながる自由曲の決定に関心を持つとともに、学級の一員としての自覚と責任を持ち、根拠を示して自己の考えや思いを発表し、お互いの意見を尊重しながら考え、判断しているかを評価しましょう。

総合的な学習の時間の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにする。

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる事例

- 1 学年 第2学年
- 2 単元名 「働くということ」を考えよう
- 3 単元の目標

職場体験活動や社会で働く様々な人と関わる学習活動を通して、「働くこと」に対する人の思いや考え方を感じ取り、働く意義や自分と社会との関わりについて考え、その成果を生活の中で生かそうとする。

4 言語活動の充実の視点

- 視点1： 5日間の職場体験から感じたことや得た情報の分析を通して、新たな発見や気付きを見だし、追究課題の答えを考える。
- 視点2： 追究課題の答えを基に、自己の「働くということ」についての考えを伝え合い、互いの考えを広げたり深めたりする。

5 主な学習活動（60時間）

段階	学習活動
第一次 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・第一学年で調べた職業の特徴や新たに文献等から調べた様々な職業の特徴を整理し、職業の必要性を考える。(5) ・ウェビング等を用いて、「働くこと」についての自分の捉え方を見つめたり、伝え合ったりする。(2) ・職場体験活動を行う事業所に事前の調査を行い、自分たちの捉えとのずれを分析したり、疑問を創出したりして追究する具体的な課題を設定する。(8)
第二次 (35)	<ul style="list-style-type: none"> ・追究課題を基に、職場体験活動の目標や探究計画を立て、職場体験活動（5日間）を行う。(34) ・課題について探究した結果をまとめ、事業所からコメントをもらい、再度結果をまとめる。(1)
第三次 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験活動で得た結果を分析し、追究課題の答えを考える。(5) 視点1 ・追究課題の答えを基に、「働くということ」についての新たな気付きや今後の自己の関わりを明らかにし、報告書にまとめたり、互いに伝え合ったりする。(9) 視点2

探究のプロセスと言語活動

- 総合的な学習の時間の目標を実現するためには、以下の探究のプロセスを意識することが必要です。
【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】
- 探究のプロセスには、体験活動と言語活動を適切に位置付けます。
- その際、主に以下の二場面において、言語活動を充実させましょう。
 - ・体験したことや収集した情報を整理したり、分析したりして思考する場面
 - ・他者に伝えたり、自分の考えをまとめたりする場面

他者と協同して取り組む学習活動と言語活動

- 探究のプロセスにおいては、他者と協同して問題を解決する学習活動を重視します。
- 協同して問題を解決する学習においては、言語活動の充実を図ることにより、以下のような価値を生み出すことが大切です。
 - ・多様な情報の入手によって分析や考察の質を高める。
 - ・異なる考えを持つ他者を尊重し、自らの役割を自覚する。
 - ・力を合わせたり交流したりすることの大切さや喜びを実感する。